

特集
NO.2

先人たちの軌跡

明治32年に開拓の鍬がおろされて以来、先人たちのたゆまぬ努力により、今日の和寒町が築き上げられてきました。
平成21年には『わっさむ110年』を迎えることとなります。

【昭和元年～昭和39年編】

広報わっさむでは、平成21年にわっさむ110年迎えることから、今日までの和寒町の歩みを「先人たちの軌跡」としてご紹介していきます。今回は、昭和初期から中期頃の様子をご紹介します。

昭和元年～昭和10年（激動期）

昭和元年

初めて市街に電話開通し、和寒郵便局が電話交換業務を開始（加入36台）

昭和2年

坂本孫一氏が駅構内の立売営業を開始。和寒商工会設立総会開かれる。

昭和3年

ペオツペ駅通所廃止。



坂本氏による駅構内立売営業

昭和5年

川西の佐藤徳治氏が温床苗代を試作（当時上川地方では直播98・6%）

昭和6年

全道除虫菊生産者大会が和小で開かれ、全道生産者連合会が結成（松本六太郎会長）。南雲源一郎氏らが木製サイロを作る（サイロの始まり）。

昭和7年

西和放牧場設置。

昭和8年

松岡農場支配人（小川義雄氏）が障子30枚の温床苗代を作り6反歩に



道庁立除虫菊試験地

1本植えして好成績をあげる。

昭和9年

道庁立除虫菊試験地設置。

昭和10年

除虫菊作付1千800町歩。10万貫生産。

昭和11年

南雲源一郎氏所有のホルスタイン牛が天皇陛下の御覧に浴す。

昭和12年

西和郵便取扱所が開設。

昭和13年

和寒神社が現位置に設立。

昭和14年

北産化学工業株式会社が創立し、除虫菊製剤を製造。



昭和8年春の火災予防パレード（大通り）



昭和24年大通り

昭和20年～昭和39年（復興期）

- 昭和15年 東和郵便局開局。
- 昭和16年 町内各小学校を国民学校と改称。和寒村森林組合設立。
- 昭和17年 中和郵便局開局。帝国砂白金開発有限会社が創立し、砂白金採取を始める。
- 昭和18年 国民健康保険組合が事業開始。

農地改革により既墾地約2千町歩が自作農地となり、未開地への開拓



昭和24年塩狩駅

入植が相次ぐ。松本六太郎氏が本道2区から衆議院に当選。

- 昭和22年 和寒中学校開校し、三和・中和・西和・東和各小学校に分校を置く。
- 昭和23年 和寒村農業協同組合が設立。
- 昭和24年 役場庁舎を現在地に新築移転。
- 昭和25年 永山農高和寒分校開校（和高的の前身）。
- 昭和27年 待望の町制施行。開拓農業協同組合設立。
- 昭和28年 上川地方に豪雨水害発生。



昭和31年大水害（北原）

- 昭和29年 和寒保育所開設（保育所の始まり）。台風15号襲い被害甚大。
- 昭和30年 大水害発生。小川義雄氏の顕彰碑を和寒神社境内に建立。
- 昭和31年 昭和28年からの連続災害のため町財政危機に陥り、財政再建団体に指定。台風襲来、長雨及び冷害とかなり水稻収穫皆無という未曾有の大凶作。
- 昭和33年 第1回全町健民大会開催。
- 昭和34年 第1回町民スキー大会開催。町が



昭和34年駅前通り祭典

財政再建債を繰上げ償還（再建団体指定解除）。和寒映画開館。

- 昭和35年 国道40号線の市街地内舗装完成。
- 昭和36年 電電公社マイクローウエーブ中継所完成（塩狩山）。
- 昭和38年 市街地区簡易水道各戸給水始まる。塩狩国設スキー場開設。
- 昭和39年 東京オリリンピック大会で本町出身の渡辺長武氏がレスリングフリースタイルフエザー級で金メダル獲得。

【参考】和寒町史・和寒町百年史
広報わっさむでは110年を記念して先人たちの軌跡を1月号から引き続きご紹介しています。次号以降では、昭和中期から後期頃の様子をご紹介します。